

## 第 28 期第 8 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 平成 30 年 11 月 20 日（火）14 時 00 分～15 時 50 分  
市役所上杉分庁舎 12 階 教育局第 1 会議室
- ◎ 出席委員の氏名 遠藤仁委員、浅野伸一郎委員、石川俊樹委員、  
小林直之委員、今野広元委員、坂田邦子委員、  
平塚美保委員、村上かずひこ委員、横山祐子委員、  
渡辺祥子委員、渡辺通子委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 武者元子、市民図書館副館長 高橋泰、  
宮城野図書館長 柴田聡史、若林図書館長 佐藤文博、  
太白図書館長 武山剛久、泉図書館長 福井健司  
広瀬図書館長 相澤滋、榴岡図書館長 中里省一  
市民図書館企画運営係長 富田直美、  
市民図書館奉仕整理係長 山田千恵美、  
市民図書館企画運営係主任 柴山玲子、田上マリ子

### ◎ 会議の概要

#### 1 開 会

#### 2 会長挨拶

#### 館長挨拶

#### 3 議長の選出

仙台市図書館条例施行規則第 14 条第 3 項に基づき、遠藤仁会長が議長となった。

#### 4 会議録署名委員指名

会長より、渡辺祥子委員を指名。

#### 5 報告事項

##### (1) 平成 30 年度の取り組みについて

市民図書館副館長より、資料 1、2 に基づき説明。

### 【委員からの主な質問・意見】

#### ①中田サービススポット設置

議長

サービススポットの利用状況について、事務局としてどのように受け止めているか。

事務局

サービススポットは、実験的な意味もあり、週三日、異なる時間帯で、各三時間の運営を行っている。利用についてはこれからと考えており、一昨日の日曜日の利用者の状況も増加傾向であった。今後は、より広報を行い、一層の定着を図るとともに、今まで図書館をあまり利用していない方々にも PR していくことが必要と考えている。

幸いにも、利用された方にはご満足いただいております。お知り合いにもお知らせいただくなど、今後の口コミ効果にも期待していきたい。

議長

職員の派遣は、無理のない範囲で行っているのか。

事務局

運営に際しては、太白図書館から職員を派遣して、職員1名で担える範囲のサービスと考えてスタートしたが、慣れるまでは、職員2名で運営するなど、様子を見ながら行っている。太白図書館には、アルバイトを雇用して補充を行っている。

議長

サービス向上の一方で、職員に過剰な負担にならないよう、配慮をお願いしたい。

小・中学校にチラシを配付したとのことだが、意外と保護者は見ているのかもしれない。

事務局

チラシは、ほかにもオープン前に中田市民センターのお祭りに出展して配布をしたが、サービススポット利用者からは、学校で配られたチラシを見たとか、お祭りで知ったので気になって来たなどの話も聞いている。事前告知はそれなりにできたところだが、今後もさらに広報に努めていきたい。

渡辺祥子委員

中田サービススポットは、木曜日・金曜日・日曜日に開設するとのことだが、中田市民センターの図書室は毎週水曜日に貸出を行っているとのこと。サービススポットの利用者が、市民センターの蔵書を借りたいと思っても、水曜日にしか借りられないとなると、利用者にとっては二度手間となるのではないかと思うが、体制上の問題からそのようにしているのか。

事務局

市民センター図書室自体は、市民センターの図書ボランティアが運営しており、仙台市図書館としては、曜日・時間を限って場所を借りて図書館の窓口を運営している。今回、サービススポットの開設により、市民センターの図書室に初めて来たという方もいるようだ。利用者としては、市民センター図書室の本を水曜日に借りることもできるし、その場で予約して、仙台市図書館から借りることもできる。自分にあったやり方を選んでいただけたらと考えている。

議長

市民センターの蔵書も含め、統一的に検索できるのか。

事務局

市民センターの蔵書は、手作業で貸出が行われており、図書館資料として登録されておらず、全く別のものとして取り扱っている。

## ②貸出上限冊数変更

議長

貸出冊数は、以前から、増やしてほしいとの要望があったのか。

事務局

利用者の方から「もう少し借りたい」という声を、さまざまな場面でいただいており、図書館としてもその声に応えたいと思っていたところ、11月1日から始めること

ができた。

浅野伸一郎委員

ハードカバーの本を10冊借りるとかなり重みがある。持ち運び用の、専用のバッグを利用することは考えたことはあるか。雨による水濡れなどを防止することもできる。

事務局

紙芝居用の貸出袋の準備があるが、原則として、利用者に持ち帰り用の袋を持参いただいている。館内では車付きのカートや買い物籠を設置し、活用いただいている。10冊への冊数変更については、児童向け絵本などに大変需要があり、また、料理や園芸などの実用書を借りたり、調べものを行ったりする際には、冊数が必要になる方が多いようだ。

## (2) 指定管理者制度導入館の平成29年度管理運営状況について

市民図書館副館長より、資料3に基づき説明。

議長

ただいまの報告に対して委員の皆さんから質問や意見はあるか。

浅野伸一郎委員

指定管理者制度については、目標が全般的に抽象的との指摘もあるようだが、評価シートにある図書館の目標は、指定管理者自身が個別具体的に目標を掲げているのか。また、成績が非常に良いが、その中でも何か取り組むべき課題はあるか。

事務局

運営については、仙台市図書館振興計画で5年間の計画を定めているので、その実現に向けて、各図書館が地域性に応じた事業を行っている。

基本となる貸出サービスだけでなく、特に指定管理者においてはもともと民間のノウハウを持っており、ヤングアダルト世代を対象としたビブリオバトルの実施をはじめ、若い方々の声を取り入れるさまざまな事業を大変活発に行っている。現段階では、数値目標は掲げておらず、図書館振興計画に基づいて各館ができることをやっている状況にある。

浅野伸一郎委員

個別の図書館の課題は、例えば、利用者が減っているので増やそう等、取り組まれているということか。

事務局

個別の課題としては、指定管理者に限らず、それぞれの図書館ごとの課題はある。やはり利用者を伸ばしたいとか、障がい者サービスの提供はどうかなど図書館振興計画に掲げている事業が適切に実施されているかということである。

利用者数の増減等の数値による評価は分かりやすい。しかし、各図書館とも子どもの読書活動推進に力を入れており、また、地域に役立つ図書館であることを目指して、地域の課題解決に繋がるような資料の提供を行っているが、こういったことは、なかなか数値として見えにくい。郷土資料を知る講座や連携イベント等も開催しているが、

どのような評価軸で効果を図るのか、図書館全体としての課題と考えており、今はまだ手探りの状況である。

議長

指定管理については、運営を希望する事業者が図書館振興計画に沿った形で計画を立て、それを指定管理者選定委員会で審査をして、図書館ごとに事業者を選定している。このように各館の評価を並べて見て、委員の皆様から新たな観点で意見をいただけるだろうか。

今野広元委員

3枚の評価シートだが、あまりにも文字が多いと感じた。もう少し、簡略化して、例えば箇条書きでもよいので、評価として良かった点、悪かった点、改善すべき点をもっと明確になれば、私たちも意見をしやすいと思う。

全体的な評価が、「S」や「A」となっているが、評価の基準は明確になっているかどうか問題だ。Sの基準は何か、どのような運営ならBなのか、分かりづらい。このように全てSやAでは、指定管理者が満足して向上心がなくなることを懸念する。仙台市側からも今後の改善点を示して、将来に向けて前向きに取り組めるようにしてはどうか。

議長

確かにできたことを並べているが、どんな課題意識を持ってこの先進もうとしているのかも重要だ。

## 6 協議事項

### (1) 第28期の振り返りと今後の課題

市民図書館副館長より、資料4に基づき説明。

#### 〔委員からの主な質問・意見〕

議長

資料4「年代別利用統計」を拝見したが、図書館ごとに年代別の特色が出ている。今、どの図書館でも同様のサービスの提供を目指す一方で、やはり館ごとの特色をどのように盛り込むか非常に難しい課題である。

また、これまで議論いただいた仙台市図書館事業報告書についても、ここに書かれていることに限らず、この先の協議会につながる課題を含め、今期第28期の総括として委員の皆様からご発言いただきたい。

渡辺通子委員

仙台市図書館は、指定管理者制度を導入する等民間の力を取り入れる取り組みを進める一方で、図書館のPRをどうするかが課題であったと思う。それに対しては、昨年度、図書館ホームページを一新するなど、変わろうとしている図書館を示すことができたのではないかと。今後は、資料4などを元に、館ごとの特色に応じて力をいれていくとよいと思う。ヤングアダルト世代は、図書館を明るくし、活力を与えてくれる存在であるし、一方、上の世代の利用が多い図書館では、PRについても活字をもつ

と大きくするなど工夫することで、より良い方向へ進むのではないか。

渡辺祥子委員

一般に図書館の業務は短期間で結果が出るものではないし、数値化できない部分も大きいと思う。時代的に数値化が大変求められているが、今は目に見えなくとも、長い時間を経て結果が出るものであるという視点や、数字だけでなく中身はどうだったかとの視点を、時代に流されることなく持ち続けることが必要だ。

「同じ本を何回も読みたいのに、たくさん本を借りなさいと言われる」「もっと借りたいけれど、学校図書館には読みたい本がなくなってしまった」などの話を小学生から聞いたことがある。評価や数字を求めすぎるとジレンマが生じる。

横山祐子委員

図書館は、0歳から高齢の方までどの年代においても、等しくサービスを受けられる施設だということをもっとPRしていかなければならないと感じているし、まだ足を運んでいない方も多いいということにも驚いている。これからは若者だけでなく、障がい者やいろいろな方々に、多様な方法で発信し、足を運んでもらえたらと思う。中田サービススポットのように、地域のお祭りでお知らせをするなどの地道な活動がPRにつながるということがわかったので、今後も大切にしていきたい。

議長

横山委員は、小学校の図書事務員をなさっているとのことだが、学校の先生方との交流はどうか。例えば、市民図書館でも、出前でブックトークを行っているが、そこで終わらずにどうやってその技術を教育現場に根付かせるかはこれからの課題である。人を育てるのは時間がかかり、立場の違う方同士がコミュニケーションを取りながら伝えていくのは大変難しい。

横山祐子委員

今回、学校貸出資料の配送サービスが充実したことを先生方は大変喜んでいた。先生方から教科書に載っている本を紹介したいが、なかなか時間がないということで、私たちが受け持って順々に織り込みながら話をすることもある。

村上かずひこ委員

本日の資料4「年代別利用統計」がとても興味深い。太白図書館の方が、市民図書館より利用者数が多いが、図書館要覧のデータを年度別で見ると平成27年度までは市民図書館が多かった。何故なのか。例えば、70歳以上の人は敬老乗車証を持っているが、この年代の市民図書館の利用は少ない。20代は市民図書館が多いのは中心部にあるからだろうか。6歳までを見ると、圧倒的に太白図書館と泉図書館が多いが、市民図書館には子どものスペースがあるのに何故なのか。駐車場がないことは同じ条件だ。このような統計を詳細に分析すべきだと思う。

事務局

ご指摘の太白図書館の伸びが著しい。推測であるが、あすと長町のまちづくりの時期と重なっているように見える。

村上かずひこ委員

太白図書館は、JRや地下鉄、バスターミナルもあり、交通の影響もあるかもしれ

ないものの、市民図書館は中心部にあり、外出のついでに図書館に寄ろうという利用もあるように思うが、そのような傾向はあるのか。市民図書館では年配の方がよく本を読んでいるように感じるが、利用者数としては太白図書館と泉図書館の方が多い。

事務局

市民図書館は、貸出自体は高齢の方に限らず、あらゆる年代の方々に利用いただいていると感じている。ただし、子どもの利用については、市民図書館の児童書のスペースが、太白図書館や泉図書館に比べると、蔵書の割に非常に小さい点が影響しており、限られたスペースでどのような運営をするか日々工夫している。

平塚美保委員

学校図書館の視点で協議会に参加してきたが、各図書館の取り組みを知り大変勉強になった。今まで学校図書館と地域の図書館との連携では、パッケージ貸出やブックトークに来ていただくことはやっていた。日頃、子どもたちを見ていると、子どもたちに本を「読みなさい」と言うだけでなく、保護者が本に親しむような環境にあることの影響が非常に大きいと思う。今、それぞれの図書館の取り組みも非常に充実している中で、保護者の年代の利用も少なくはないが、さらに利用を増やしたい。例えば家庭で、子どもと保護者が同じ本やテーマで話し合いができれば素敵だ。学校や地域、図書館との間で、同じ時期に同じテーマで本をPRする等の連携の仕方もあるのではないか。

議長

読書活動推進は国語科の延長線上にあるのかもしれないが、先生方は授業の準備で忙しく、教科のはざまにある読書活動推進がなかなか進まない現状がある。子どもたちにどのように働きかけるか難しい面がある。

坂田邦子委員

何年か協議会委員を務めてきたが、数年前から議論は変わっていないと感じている。例えば、PRの話もずっと議論されてきたが、当時は、まだデジタルかアナログかという話から始まって、ようやくホームページが整ったという話になったのだが、時代はもっと早く進んでおり、ホームページがあるから見てもらえるという時代ではどうにない。つまり、子どもも大人も、欲しい情報を自分から取りに行くのではなく、情報を待っている状態になっている。PRというからには、やはり相手に届ける必要があるので、プッシュ型のPRをする必要がある。

もう1つは、先ほど、より質的なものに目を向けるという話があったが、同感だ。数字から読み取れることが十分にあることは分かるが、この何年かで、どれだけ図書館や読書、読者のクオリティ、例えば、どのように本を読むようになったか、読み方が変わったかということが、分かっていないのではないか。図書館の文化的意義や、読書が私たちの生活にどのように役立つかがはっきりしているのか。中学生や高校生が、どうすれば「読みたい」と思う環境になるのか考えていくべきではないか。もう十分にやっているが、夢がない。夢や理想を語って子どもたちに「本を読むと楽しい」ということを本当に教えてくれるのは誰なのか。さまざまな専門家が、読書が脳科学に与える影響を語っており、読書につながるとっかかりとしてそれを知れば、子ども

たちも単純に頭が良くなりたいたいから本を読もうと思うのではない。家庭の事情はさまざまで、共働き世帯では本を読み聞かせる余裕がないこともある。結局、文化資本がない家庭では自分から本を読むような環境を作れないという格差にもつながっていくので、図書館や学校図書館の役割が大きくなるのではないか。

今野広元委員

P T Aの役員という立場で参加しており、保護者もともに本を読むような環境を整えることが必要だと良く分かっているが、なかなか保護者自身が読む時間がないのが実情だ。図書館を利用しない人に向けて発信をすることは行うべきだが、仙台市図書館の大きな目的は、誰もが皆利用できる図書館づくりをすることだと思うので、足を運ばない人に運ばせるのを最終目標にする必要はない。中田サービススポットは良い取り組みだ。地域によっては図書館が遠く行きたくとも行けないことがある。サービススポットを作ることによって、市民センターだけでなく近隣の小中学校との連携も図られる。これをきっかけに図書館が身近に当たり前のものと意識されていくと思うので、人員確保の問題もあるが、市民センター等の施設を意欲的に生かして、広げていくと良いのではないか。

小林直之委員

資料4を大変興味深く拝見した。6歳から12歳のひと山と、15歳から29歳のひと山と、それ以降の比率は、出版統計にかなり近いバランスかもしれない。ただし、出版統計の場合、本に対してお金を払うという非常に大きな相違があり、単純に比較できないが、今の出版の状況や読者も、これに近いバランスなのではないか。出版業界では、おそらく10年を待たず流通のあり方が大きく変わるというように言われており、街で本が買えなくなる時代が来ることを一番問題視されている。これに対して、図書館が担う役割は大きく増すだろうし、またその役割の変化も未だ誰にも分からない。本当に必要な本が図書館でしか読めない時代が来るかもしれない。いわば、読者の代わりに本を買うことが図書館の第一の目的になっていくこともあるのではないか。図書館はより一層、知恵を絞ることが必要になってくる。それは、人員増や、効率化、指定管理、開館時間、サービススポットかもしれない。出版業界では、読者を開拓するのは難しいと分かっており、本好きな人に本を売ることを考えている。図書館でも、今まで来てない人を呼ぶことが果てして正解なのか。より仙台市の本好きを図書館に引き入れるという方向で考えていくのも1つの手ではないだろうか。そのような取り組みには、私も協力していきたい。

石川俊樹委員

私は宮城県図書館の職員なので、どうしても県図書館でやっていることやあるいは課題となっていることを胸の中に持ちながら、いろんな事業を見せていただいているが、仙台市図書館は常に先を行っていると感じている。今回の年代別の統計資料にしても、非常に細かく丁寧に分析等を加えながら、改善すべきところを1つ1つ詰めて行こうとする姿勢を感じる。サービススポットを開設したことや、システムを新しくした際の改善点等々、非常に細かい部分であるが着実に成果を上げている。委員の皆さんからお話があった通り、今後、新しい取り組みを続けるのも難しく、作ったも

のを維持していくのもまた大変だ。何億円という予算をいただき運営している中で、これだけの予算を使ってこの内容かと言われてしまうところが、実際に運営する側の大変な部分だと思っている。

浅野伸一郎委員

河北新報の読書欄の担当をされており、毎日出版社から新刊本が届くが、装丁や編集の仕方に工夫があり、本を開くときの楽しさを感じている。取材のため、市民図書館で涌谷町史や仙台市史を資料として読む機会があり、そのような資料は、貸出制限が厳しいが、公共の図書館でないと見られない資料だと実感した。売れるからでなく、読んでもらいたいという本を図書館に置いてほしい。今後、少子高齢化や財政状況等、どのような社会になるか予測がつかない中で、市民の求めるサービスとは何か、図書館としてどのようなサービスを提供していくのか考えていく必要がある。

議長

それぞれの委員のお立場から、次期協議会の議論にもつながっていく多様な観点からの話をいただくことができた。第28期図書館協議会の運営に関して、委員の皆さんに御礼を申し上げたい。

それでは、「7 その他」で事務局から何かあるか。

## 7 その他

市民図書館長より、委員の皆様へ御礼の言葉。

議長

以上で議事を終了する。

## 8 閉会